2022年6月27日

保護者の皆様

社会福祉法人　夢工房
夢の鳥保育園

７月ほけんだより

暑い季節がやってきました。梅雨明け直後は暑い日が続くので引き続き熱中症に注意していきましょう。水分補給や体調管理に気をつけながら、暑さに負けない体づくりを心掛けていきたいと思います。

低年齢ほど危険な熱中症

①小中学生に比べて暑さに弱い

- 乳幼児は体温調節が未熟なため、うまく汗をかくことができず、そのため、体に熱がこもりやすく、体温が上昇しやすい。
- 乳幼児は体内の水分量が約７０％と大人に比べて多く、また、体重に比べて体表面積が広いため、外気温の影響を受けやすく、体温の上昇や脱水等の症状を起こしやすくなる。

②地面からの熱を受けやすい

- 通常、気温は１５０㎝の高さで測定されており、それより低い位置にいる乳幼児の高さではさらに２～３度気温が高くなると言われている。そのため、晴天時には身長の低い乳幼児は熱せられた地面からの照り返しによって大人より高温の中で過ごしていることになる。

③乳幼児は自分では気がつかない、伝えられない

- 自分からのどの渇きや体の異変など自分の状態を大人に訴えることは難しいため、周りの大人が配慮することが重要。
- 遊びに夢中になり、気が付かないうちに熱中症になっていることがある。

気をつけよう！　夏に流行する病気

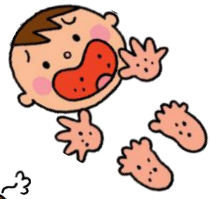
夏に気をつけたい感染症。代表的なものについて、主な症状を挙げてみました。
気になる症状が見られたら、病院を受診し、園まで結果をお知らせ下さい。

ヘルパンギーナ

・高熱（１～３日続く）とのどの痛み。特にのどは、水疱や潰瘍を形成します。
・のどの痛みがひどく、食事や飲水ができないことがあります。

手足口病

・手のひらや足の裏、口の中に発疹や水疱ができます。水疱は痂皮を形成せず治癒します。
・発熱は軽度です。口内炎がひどく、食事がとれないことがあります。



プール熱（咽頭結膜熱）

・３９℃前後の高熱とのどの赤み・痛み。
・目の痛み・かゆみ・充血など結膜炎のような症状が出ます。

流行性角結膜炎（はやり目）

・まぶたの腫れや異物感、痛み、流涙、結膜の充血、目やに。
・症状が重くなると、耳前リンパ節が腫れて痛みを伴います。
・感染力が強く、集団発生することがあります。
・登園停止疾患です。

水いぼ

・粟粒の大きさの発疹が除々に大きくなり、中央部が少しくぼみ、つやつやしてきます。
・胸や腹、わきの下などにできやすく、全身に広がっていきます。
・乳幼児期は免疫が獲得される１．２年程度は繰り返しできるため、無理にとる治療を勧めない病院が多くなっています。

伝染性膿痂疹（とびひ）

・湿疹や虫ささされ痕を掻きむしった部に細菌感染を起こし、水疱を形成し、破れて赤くむけたような状態になります。
・ガーゼで覆って登園可能です。

頭じらみ

・頭じらみの成虫は２～４㎜くらいの大きさで、人間の頭皮に寄生し血を吸って、毛根の近くに卵を産みます。吸血された後は激しい痒みに悩まされます。
・毛から毛、物から毛へと渡って移動し、感染していきます。

「園での虫よけ対策について」

・テラス（蚊取り線香）
・保育室（アースノーマット・網戸用虫よけネット）
・午後外遊び時（虫よけスプレーミストタイプ）
・午前中に関しては各自登園前に行って下さい。
・虫にさされた時（ムヒベビー・ムヒ）
・虫よけパッチ・虫刺されパッチの使用は禁止
（はがれて誤って口に入れてしまう恐れがあるため）
・その他、気になる事がありましたら看護師まで。

７月の予定

1日（金）衛生調べ

12日（火）発育測定
（くま・うさぎ）

13日（水）発育測定
（ぞう・りす）

14日（木）発育測定
（きりん・ひよこ）